

機能的脳神経外科疾患の包括的研究

について

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

【本調査研究の目的】

機能的脳神経外科とは、脳の機能障害を回復させるために行われる外科的治療です。対象となる疾患の一つに、正常圧水頭症という、高齢者に生じる慢性の水頭症があります。認知機能障害や歩行障害、排尿障害といった症状がおこります。過剰な髄液を体内に誘導するチューブを留置するシャント術で改善します。また、手足が震えたり、体をうまく動かせなくなったパーキンソン病や本態性振戦、自分の意思とは別に体が勝手に動いてしまうジストニアや痙性斜頸などの不随意運動症です。さらには脳や脊髄の障害が原因で耐え難い痛みが起こる難治性疼痛や、薬では十分にコントロールできない難治性てんかんなども外科治療が適応となることがあります。片側の顔面の筋肉がピクピクと痙攣を起こす片側顔面痙攣や、片側の顔面に耐えがたい痛みが起こる三叉神経痛も手術で治すことができます。

これら機能的脳神経外科疾患の臨床・画像的特徴や治療内容・予後を包括的に研究することで、診断・治療技術の向上とともに、機能的脳神経外科患者の予後改善につながることを期待されます。

【対象】

当院脳神経外科で診療を受けたすべての機能的脳神経外科疾患の患者さんを対象といたします。

【情報の利用目的及び利用方法】

機能的脳神経外科とは、脳の機能障害を回復させるために行われる外科的治療です。対象となる疾患として、正常圧水頭症、パーキンソン病、本態性振戦、ジストニアや痙性斜頸などの不随意運動症、難治性疼痛、難治性てんかん、片側顔面痙攣、三叉神経痛があります。

これら機能的脳神経外科疾患の臨床・画像的特徴や治療内容・予後を包括的に研究することで、診断・治療技術の向上とともに、機能的脳神経外科患者の予後改善につながる

ことを目的とし、電子カルテ、紙カルテから通常の医療において取得された診療情報を用い、統計学的に解析します。

【調査項目】

採血・尿・髄液・病理検査全データ、画像（X線画像、CT、MRI、エコー、脳血管造影、RI、心電図）、手術記録、手術時のビデオ（手術手技や使用した使用器材、解剖学的事項）を後方視的に調査します。

なお、必要な情報のみを統計資料として集計しますので、患者さんのお名前など個人を特定できる情報が明らかになることはありませんので、ご安心ください。

【調査対象期間】

1984年4月1日 ～ 2023年8月31日

【利用する者の範囲】

関西労災病院 脳神経外科 豊田真吾、小林真紀、村上知義、阿知波孝宗、山田修平、星隈悠平、高原在英、東原一浩、奥波羅秀企

【試料・情報の管理について責任を有する者】

関西労災病院 脳神経外科 豊田真吾

【研究期間】

実施許可日から2025年8月31日（調査状況により調査期間を延長する可能性があります）

【当院の研究責任者】

豊田真吾

関西労災病院 脳神経外科科

〒660-8511 兵庫県尼崎市稲葉荘3-1-69

TEL: 06-6416-1221（代表）

FAX: 06-6419-1870（代表）

E-mail: stshto@aol.com